



SAFE COMMUNITY TOWADA



子どもの安全対策部会

発表日
発表者

令和6年8月5日（月）
子どもの安全対策部会
部会長 櫻田 映子

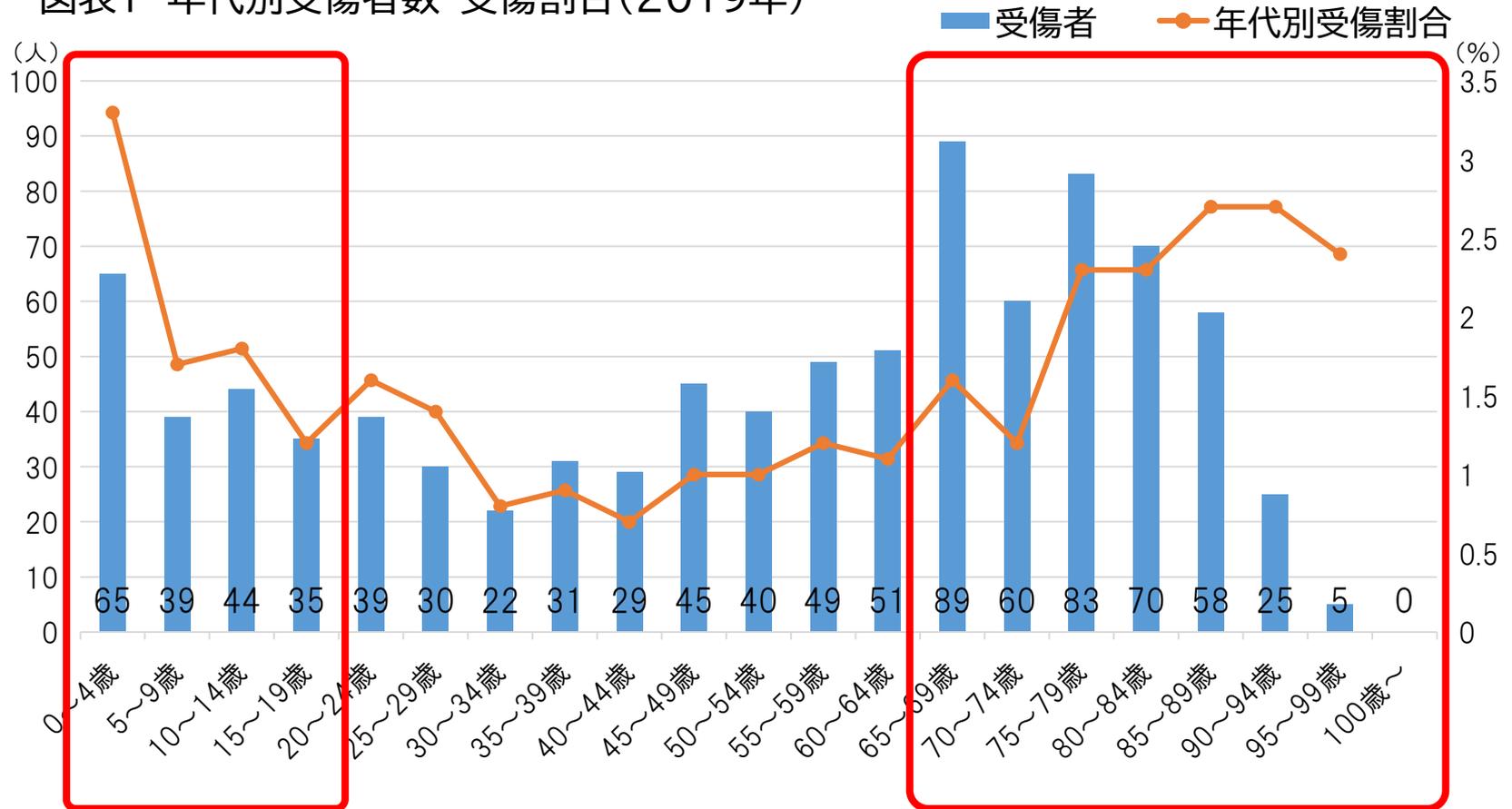
子どもの安全対策部会員

	区分	構成
1	市民団体等	十和田市連合婦人会
2		十和田市連合PTA
3		とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊
4	関係機関等	十和田地区保育研究会
5	行政関係	十和田市こども支援課
6		十和田市こども家庭センター
7		十和田市教育委員会指導課

子どもの安全対策部会 設置の背景

■ 年代別の受傷割合が高いのは子どもと高齢者

図表1 年代別受傷者数・受傷割合(2019年)

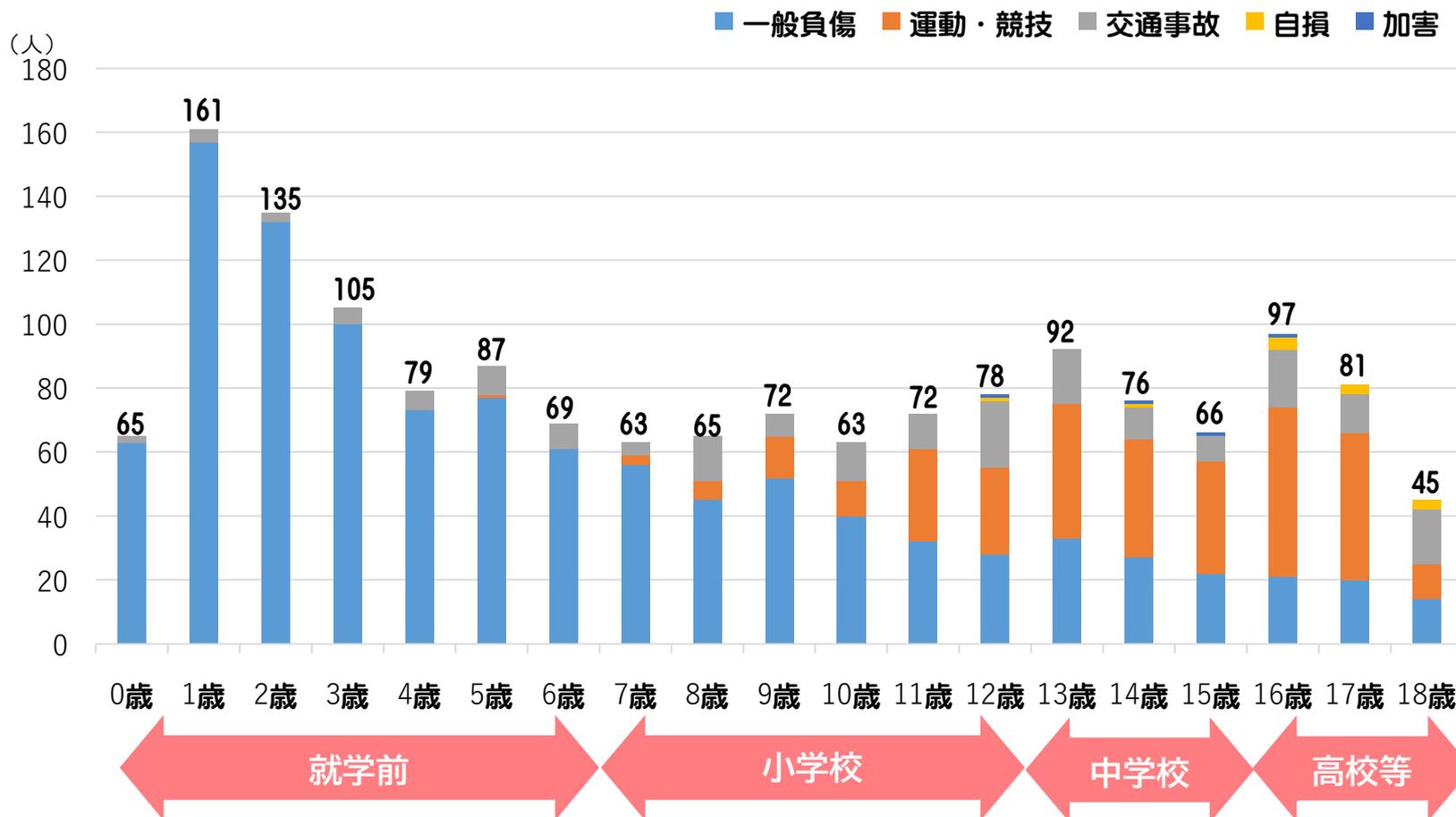


出典:救急搬送及び市立中央病院受診データ(2019年)、住民基本台帳(2019年9月30日現在)

データから見る課題①

■ 0～10歳は一般負傷、11～17歳は運動・競技での受傷が多い

図表2 0～18歳までの主な外傷受傷種別の人数(n=1,635)



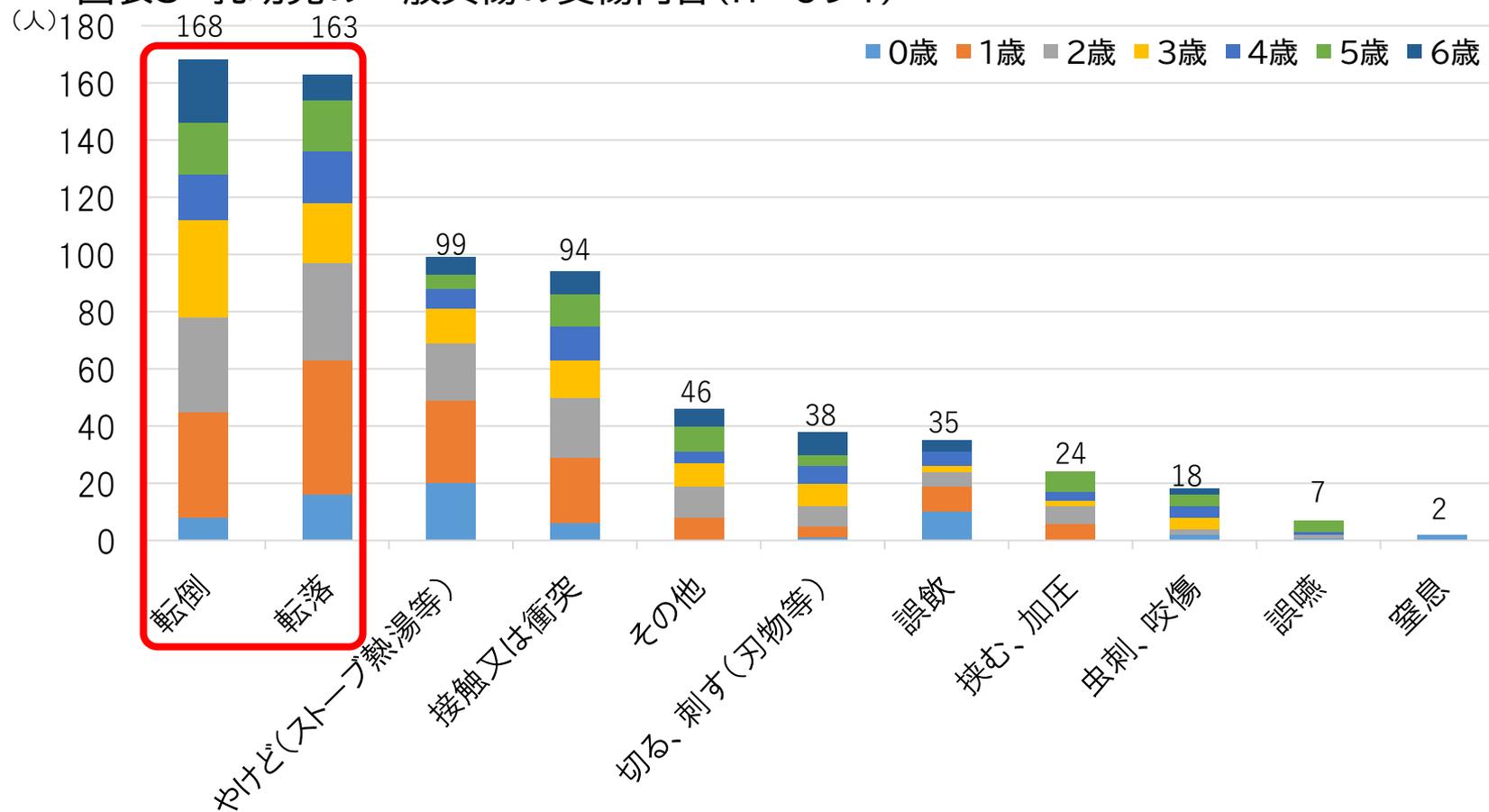
出典: 救急搬送及び市立中央病院受診データ(2014年～2023年)

データから見る課題②

■ 発達段階ごとの受傷状況①

就学前(0～6歳)の乳幼児の一般負傷では、転倒、転落による受傷者が多い

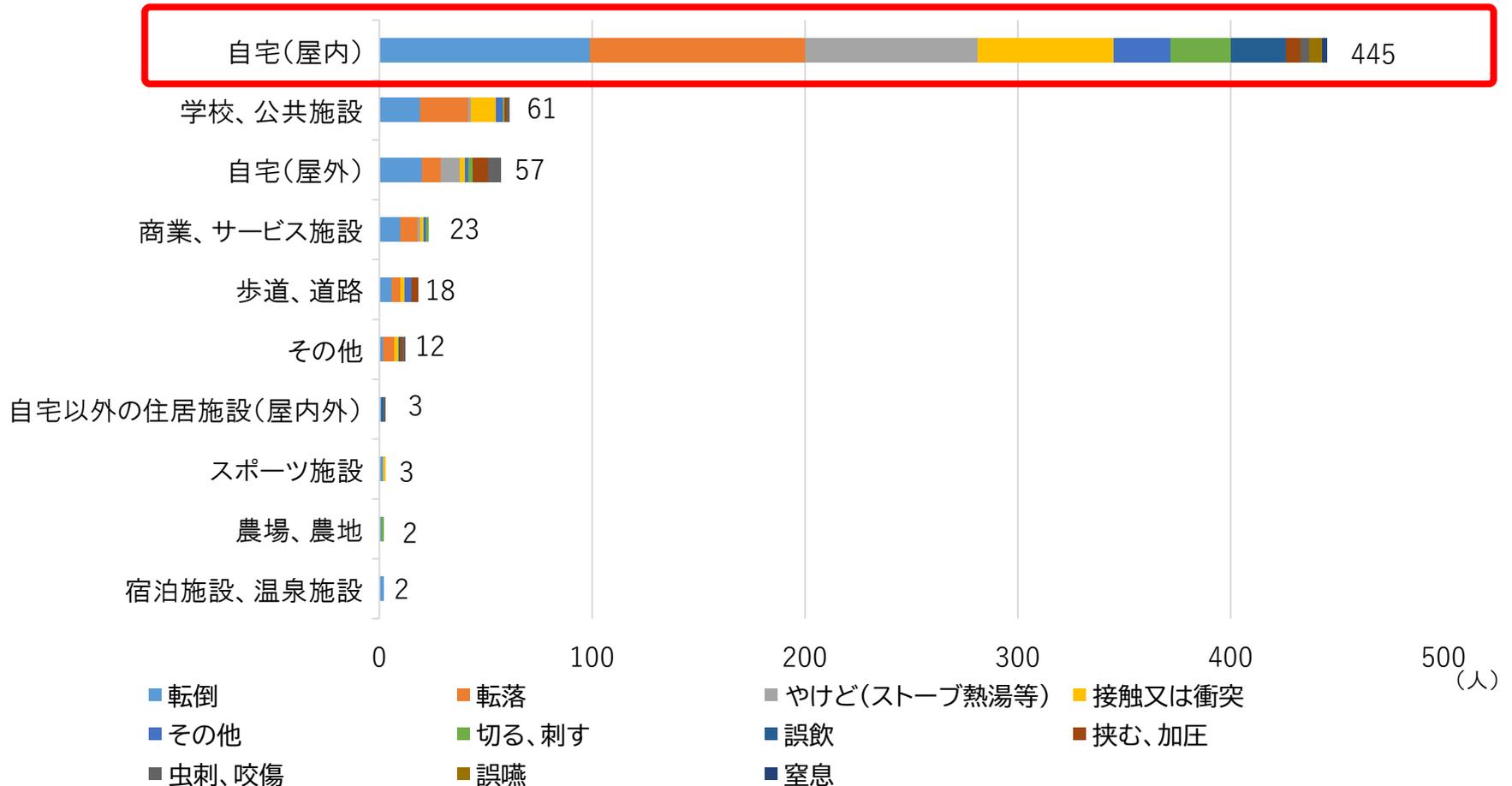
図表3 乳幼児の一般負傷の受傷内容(n=694)



データから見る課題③

■ 自宅(屋内)でのけがが大多数を占めている

図表4 就学前(0～6歳)の乳幼児の一般負傷の発生場所(n=626)

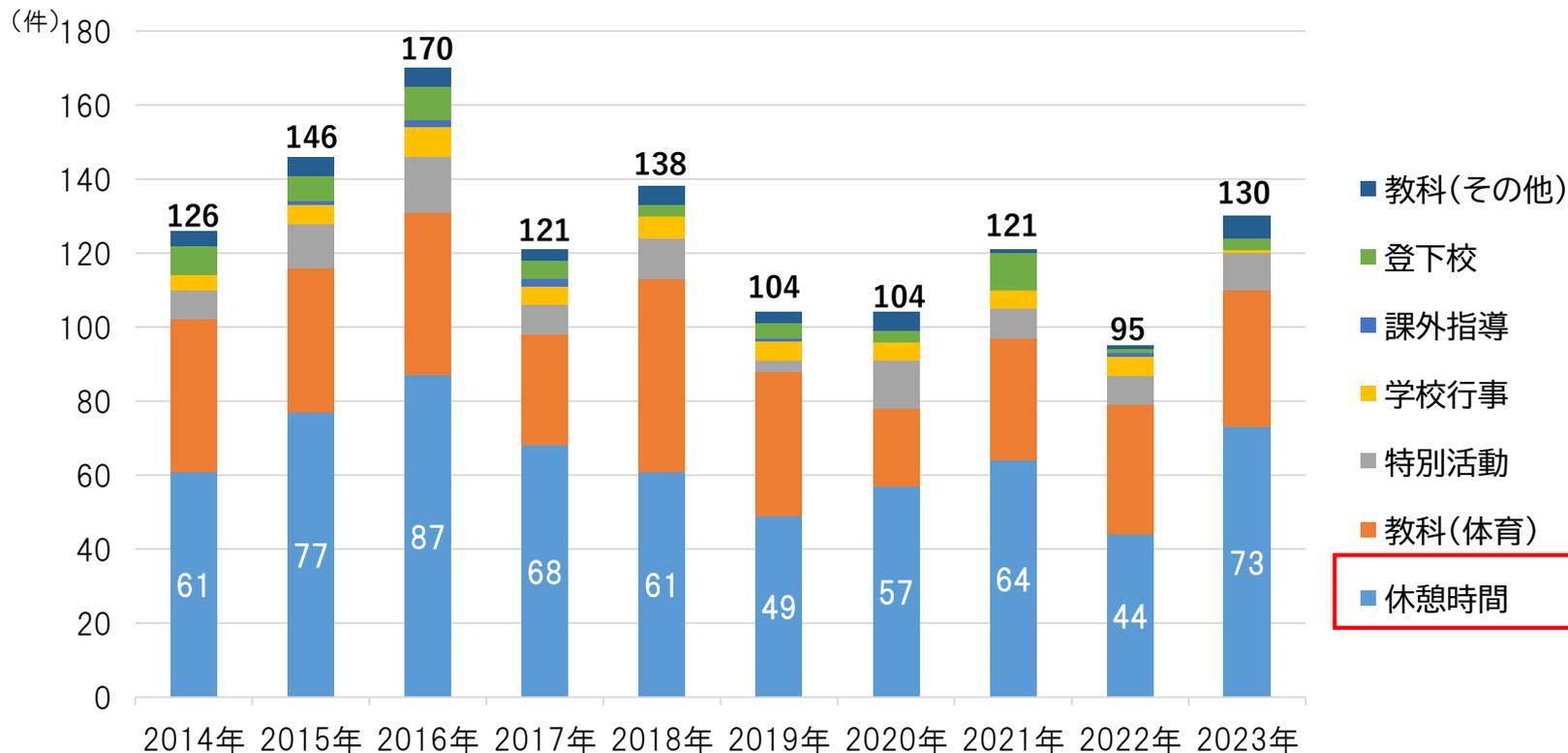


データから見る課題④

■ 発達段階ごとの受傷状況②

小学校における外傷の発生状況は、休憩時間が多い

図表5 小学校における外傷の発生状況



認証②

認証③

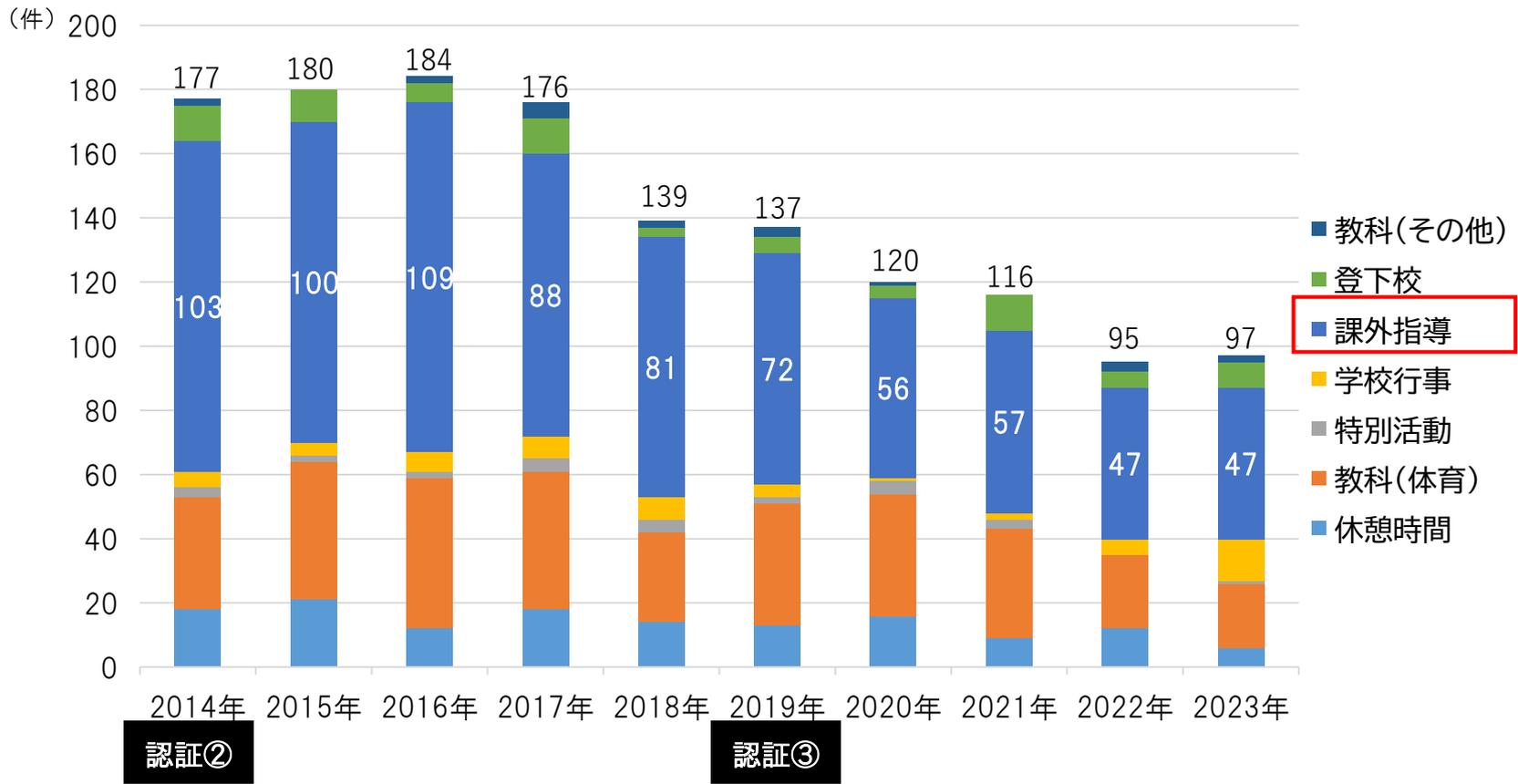
出典：日本スポーツ振興センター災害給付金(2014～2023年)

データから見る課題⑤

■ 発達段階ごとの受傷状況③

中学校における外傷の発生状況は、課外指導が多い

図表6 中学校における外傷の発生状況

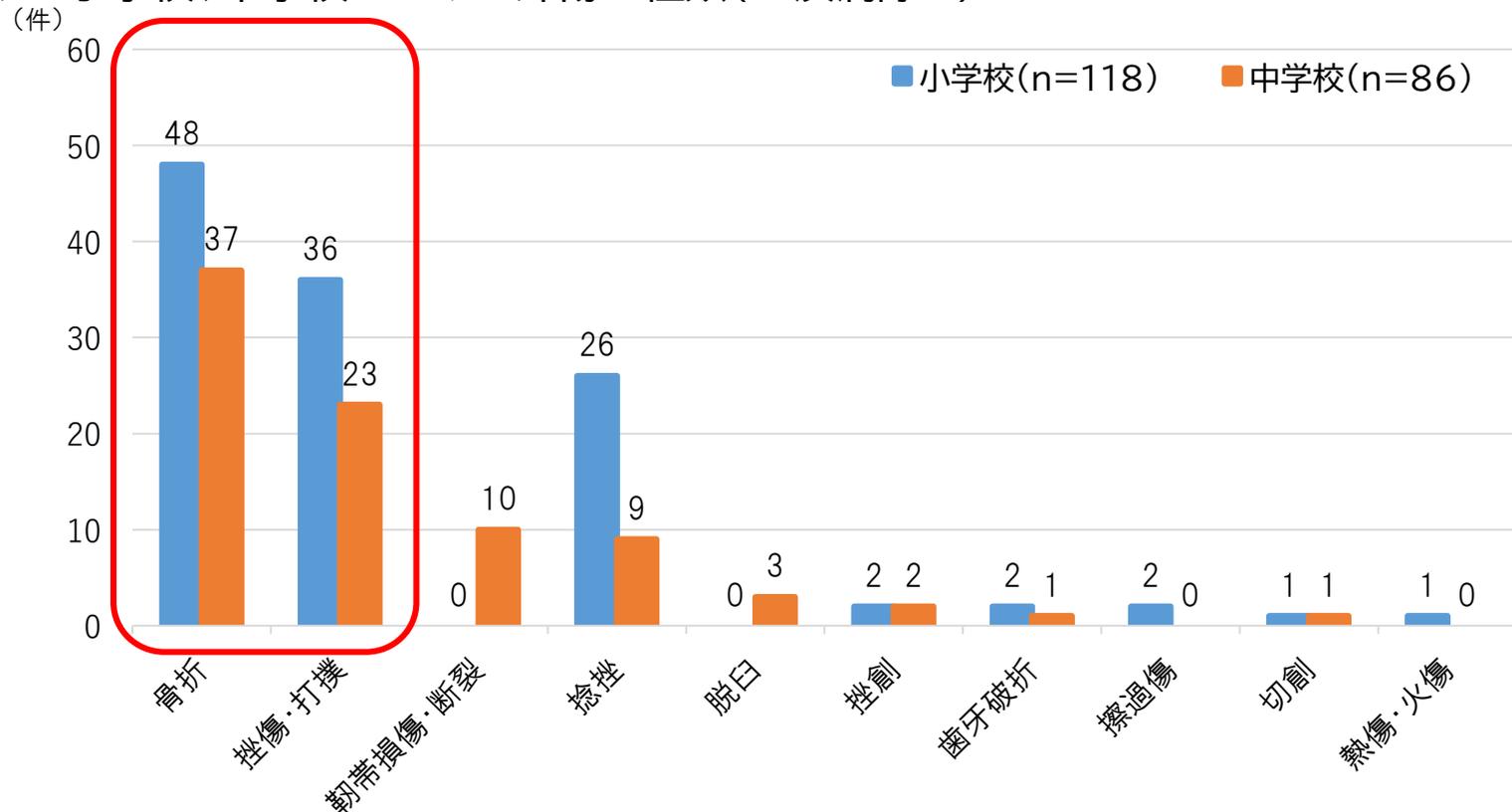


出典：日本スポーツ振興センター災害給付金(2014～2023年)

データから見る課題⑥

- 小学校、中学校における外傷の種類は、小学校・中学校ともに骨折、挫傷・打撲が多い

図表7 小学校、中学校における外傷の種類(※疾病除く)



課題の整理と取組

課題	子どもの安全対策部会の取組
① 乳幼児の自宅(屋内)での転倒、転落等のけがが多い 図表3,4	乳幼児を持つ親の意識啓発
② 小学校では休憩時間でのけがが多い 図表5,7	小学校の安全対策の啓発

中学校では部活動等での課外指導、事故種別で言う「運動・競技」でのけがが多いことから、余暇活動の安全対策部会の課題の中で、中学生も対象として予防活動に取り組んでいる。

課題①に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
乳幼児は自宅(屋内)での転倒、転落のけがが多い	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・健やか親子21 ・のびのびあおもり子育てプラン 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児家庭全戸訪問(生後1か月未満の乳児の家庭訪問) ・乳幼児健診 ・第2次健康とわだ21 ・子どもすこやか手帳配布 ・とわだ子育てアプリ 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全劇の開催 ・ヒヤリハット会議 ・園だより配布 ・ポスター掲示
	規制・罰則	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活用製品安全法(PSCマーク) ・食品衛生法(おもちゃの安全性の規定) 		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの事故防止に関する関係府省庁連絡会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全柵やマットなど、年齢に応じた環境整備 ・遊具等の点検

対策部会の関わり
乳幼児を持つ親の意識啓発
(乳幼児を持つ親の意識啓発プログラム)

課題②に対するレベル別の対策

課題	対策		
	方向性	国・県レベル	市(学校)レベル
小学校では休憩時間でのけがが多い	教育・啓発		<ul style="list-style-type: none"> 各校で校内歩行、体育館の使用について約束事を設けている 健康増進部会・保健主事部会・養護教諭部会での情報共有 <div style="border: 2px solid green; padding: 5px; text-align: center;"> <p>対策部会の関わり 小学校の安全対策事例の周知 (小学校の安全対策プログラム)</p> </div>
	規制・罰則	・学校の保健、安全に関する法令	・学級担任等からの指導
	環境整備	・第3次学校安全の推進に関する計画	<ul style="list-style-type: none"> 学校や公園などの遊具の点検 児童会等による休憩時間の見回り 

乳幼児を持つ親の意識啓発プログラム

課題	乳幼児の自宅(屋内)での転倒、転落等のけがが多い	
目標	乳幼児を持つ親に対し、けがに関する注意喚起を図り、乳幼児のけがを減らす	
内容等	健診に来た乳幼児の保護者に誤飲、窒息等の家庭内事故の予防を呼びかける	
	【財源】	十和田市
	【対象】	乳幼児を持つ親
	【活動】	乳幼児健診等を活用した注意喚起、ポスターによる啓発
	【人材】	市保健センター、各保育所など
(短期) 認識や知識の変化	【指標】 乳幼児健診受診者	【測定】 市役所調べ
(中期) 態度や行動の変化	【指標】 家庭内の安全対策に取り組む人の割合	【測定】 保育所等入所児童の保護者へのアンケート
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 0～4歳の一般負傷における受傷者数	【測定】 救急搬送及び市立中央病院受診データ

プログラムの活動状況①

■ 乳幼児健診を活用した注意喚起(市の取組)

市が実施している4か月児健診、1歳6か月児健診等の際に、「子どもすこやか手帳」等を配布し、乳幼児の保護者に対し、転倒・転落や誤飲・窒息等の家庭内事故の予防を呼びかけている

子どもすこやか手帳



子どもたちを事故から守ろう

子どもたちを事故から守ろう ~安心・安全なまちづくり~

十和田市は、すべての市民が安心・安全に暮らすことができるまちづくりを推進します。

0歳児から学童に成長するにつれ、子どもの死亡原因として「不慮の事故」によるものが増えています。
子どもの命を守るためには、子どもが活発に活動しても取り返しのつかない事故から守られる環境を作る必要があります。

◆家庭のできる事故予防の取り組み例…

◆誤飲

- 子どもが手の届く範囲に、小物は置かない
- ジュースの缶を灰皿代わりに使わない

◆やけど

- ストーブやポット、アイロンなどは、子どもの手が直接触れるところに置かない
- ストーブなどの暖房器具には、柵を取り付ける

◆溺水

- 風呂場など、高さ50cm以下の場所は、転落の危険性があるので、残し湯をしない
- 浴室の入り口に鍵をかける

プログラムの活動状況②

■ 子どもの安全対策部会の取組

年度	目的	活動概要
2019年	調査・啓発	アンケート調査(回答数1,466件) 啓発用ポケットティッシュ配布 (市役所、保健センター、保育園等44施設)
2020年	啓発	アンケート調査(2019年実施)結果の ポスター作成・配布(保育園、子育て支援セ ンター、公共施設等44施設)
2021年		新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、活動なし
2022年	調査・啓発	アンケート調査(回答数1,116件) 啓発用絆創膏配布(アンケート配布時)
2023年	啓発	アンケート調査(2022年実施)結果の ポスター作成・配布(保育園、子育て支援セ ンター、公共施設等43施設) 啓発用絆創膏配布(乳幼児健診時)

プログラムの活動状況③

2019年
啓発用ポケットティッシュ配布
(市役所、保健センター、保育園等)



2020年
アンケート調査(2019年実施)結果の
ポスター作成・配布(保育園等)



B3 50部作成

2022年
アンケート調査(保育園等)
啓発用絆創膏配布

乳幼児を持つ保護者の安全意識調査

本調査は、子育て支援センターや保育園等に勤務する保育士さんや保護者さんへのアンケート調査です。アンケートの結果を参考に、安全意識を高めるための取り組みを行います。アンケートの結果は、匿名で集計し、公表いたします。ご協力をお願いします。

【調査対象】 乳幼児を持つ保護者さん(0歳～2歳未満の子供を持つ保護者さん)

【調査期間】 令和4年10月1日～10月31日

【調査方法】 アンケート調査(紙質)

【調査結果】 調査結果は、匿名で集計し、公表いたします。

性別	年齢	職業	調査結果
男性	20代	保育士	80%
女性	20代	保育士	85%
男性	30代	保育士	75%
女性	30代	保育士	80%
男性	40代	保育士	70%
女性	40代	保育士	75%
男性	50代	保育士	65%
女性	50代	保育士	70%

【調査結果の活用】 調査結果を参考に、安全意識を高めるための取り組みを行います。

【調査結果の公表】 調査結果は、匿名で集計し、公表いたします。

【調査結果の活用】 調査結果を参考に、安全意識を高めるための取り組みを行います。

【調査結果の公表】 調査結果は、匿名で集計し、公表いたします。



2,000個



啓発用ポケットティッシュ配布

プログラムの活動状況④

■2023年

①アンケート調査の結果をもとにポスターを作成し、各施設に配布



保育園での掲示。保育園の送迎時に保護者が見て行きます。



子育て支援センターでの掲示

プログラムの活動状況⑤

■2023年

②外傷データをもとに、年齢にあった注意喚起を記載した 啓発用絆創膏を作成し、乳幼児健診で配布

0歳用(4か月児健診)



300個作成

1～3歳用(1歳6か月児健診、
2歳児発達健診、3歳児健診)

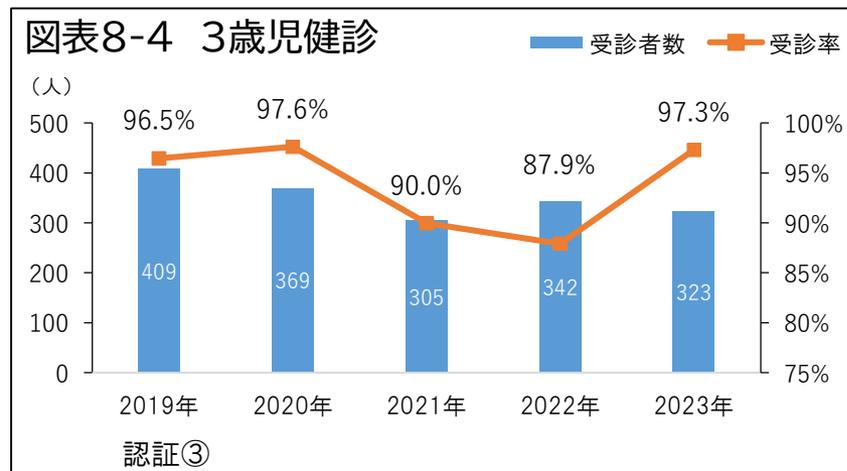
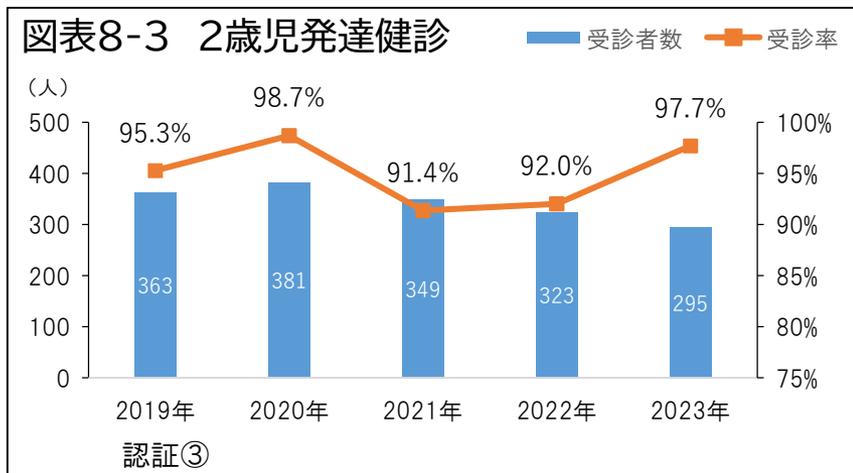
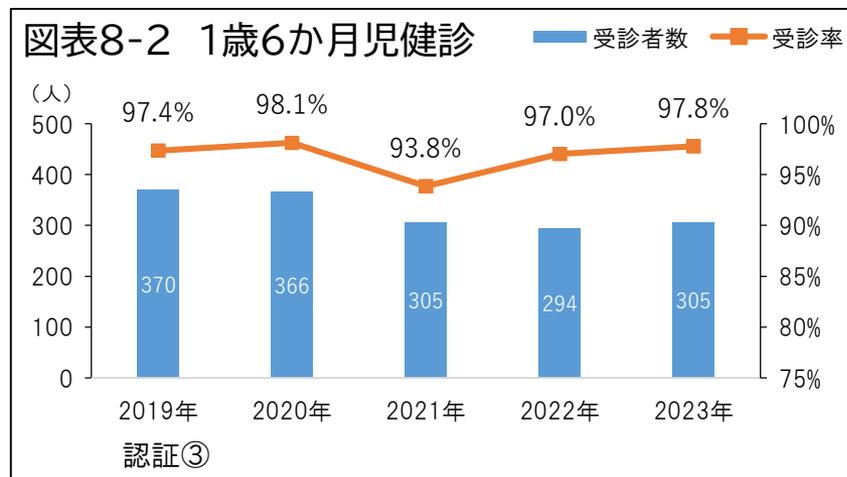
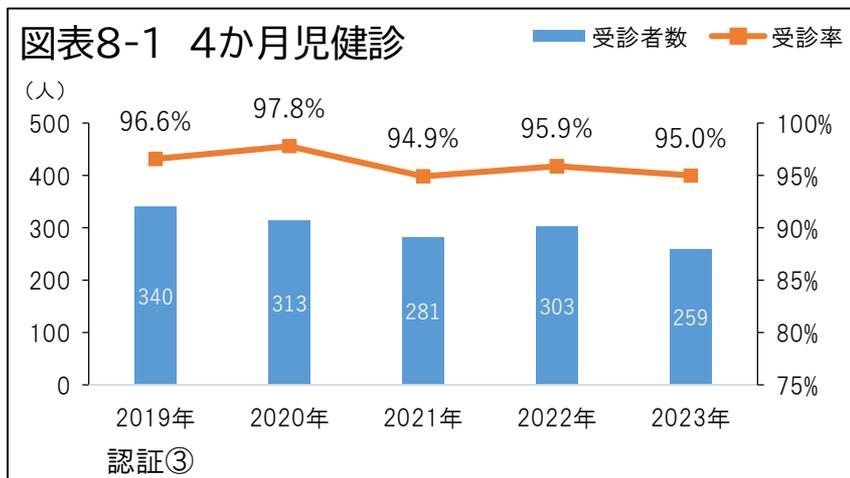


1,100個作成

プログラムの活動評価（短期）

■乳幼児健診受診者の推移

健診対象者の約90%が受診している

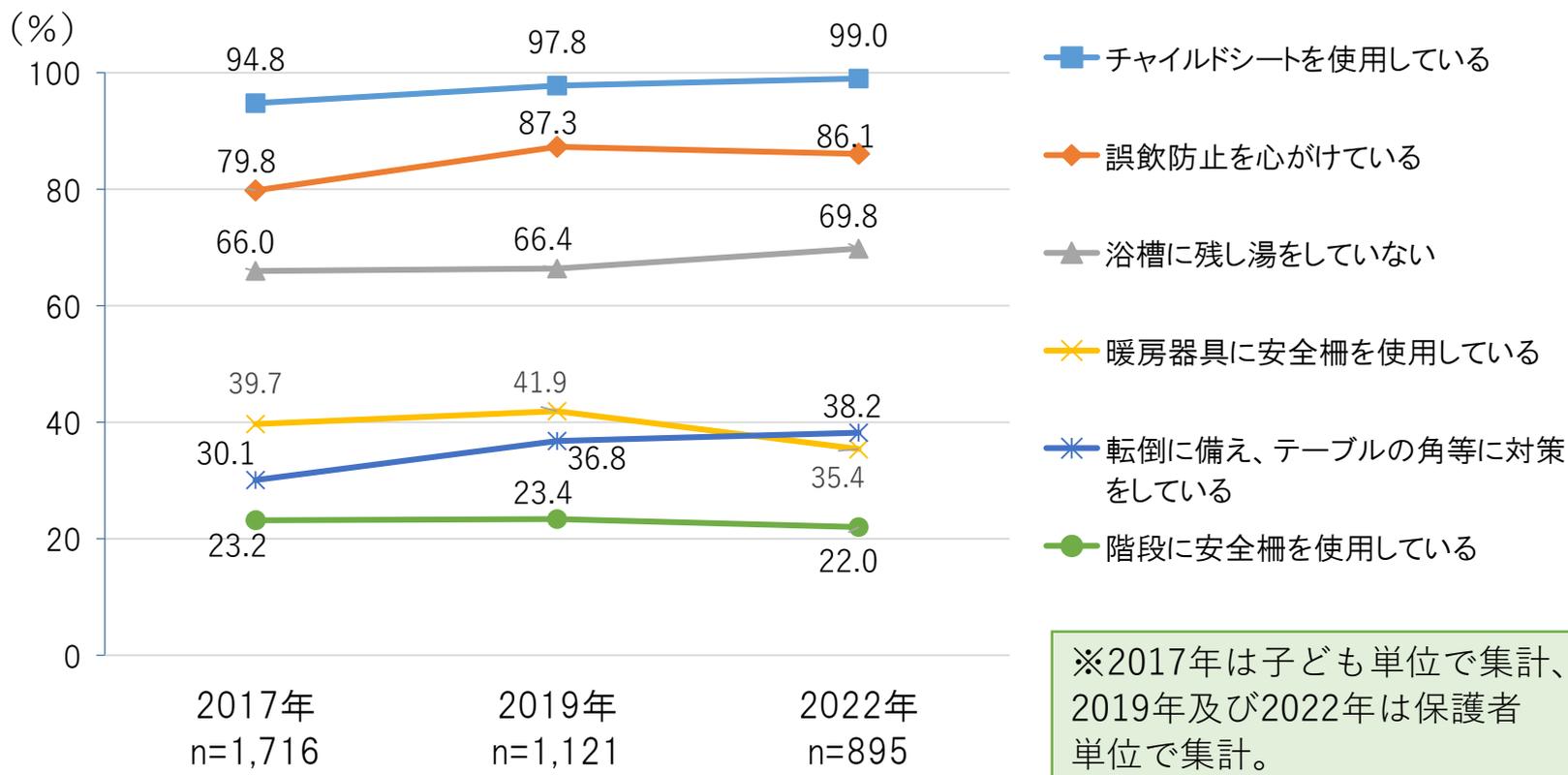


プログラムの活動評価（中期）

■家庭内の安全対策に取り組む人の割合

暖房機器への安全柵、転倒防止対策、階段の安全柵の設置率は低い

図表9 保育園児の保護者へのアンケート結果(中期)



プログラムの活動評価（長期①）

■ 受傷者数は減少している

図表10 乳幼児の一般負傷における受傷者数の推移

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
0歳(人)	10	5	5	2	2
1歳(人)	20	8	7	9	8
2歳(人)	13	12	14	7	7
3歳(人)	10	9	9	4	4
4歳(人)	9	3	7	7	3
5歳(人)	11	9	4	7	3
6歳(人)	6	7	4	5	3
合計(人)	79	53	50	41	30
受傷割合(%)	2.8	1.9	1.9	1.6	1.3

プログラムの活動評価（長期②）

■ 乳幼児の受傷の経緯にも変化が見えてきた

- ・1、3、4歳の転落、0～1歳のやけどは大幅に減少
- ・転倒は大きく減っていない

図表11 自宅(屋内)での乳幼児の一般負傷の受傷経緯比較

2014-2018					2019-2023			
年齢	総数	1位	2位	3位	総数	1位	2位	3位
0歳	32	やけど(12)	誤飲(6)	転倒/転落/接触又は衝突(4)	16	やけど(6)	転落(4)	接触又は衝突(2)
1歳	80	転落(24)	やけど(17)	転倒(16)	46	転倒(13)	転落(10)	やけど(9)
2歳	61	転倒(13)	転落(12)	接触又は衝突(11)	36	転落(11)	転倒(8)	やけど(7)
3歳	41	転倒(11)	転落/接触又は衝突(9)	やけど/切る、刺す(4)	22	転倒(8)	転落(4)	やけど/接触又は衝突(3)
4歳	32	転落(8)	転倒(6)	接触又は衝突/切る、刺す(4)	14	転落/やけど/接触又は衝突(3)	その他(2)	—
5歳	17	転落(4)	転倒/やけど(3)	—	16	転倒(6)	転落(3)	接触又は衝突/その他(2)
6歳	15	転倒(4)	転落(3)	やけど/切る、刺す/接触又は衝突/その他(3)	17	転倒(6)	切る、刺す/誤飲(3)	やけど/その他(2)

出典：救急搬送及び市立中央病院受診データ(2014年～2023年)

小学校の安全対策プログラム

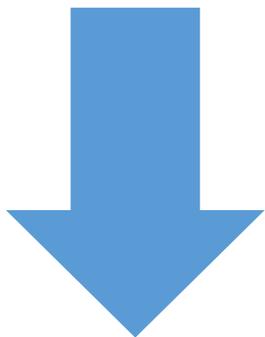
課題	小学校では、休憩時間でのけがが多い	
目標	小学校の休憩時間に発生する外傷件数を減らす	
内容等	各学校での効果的な安全対策の取組事例の情報提供、児童会による注意喚起	
	【財源】	十和田市
	【対象】	小学校の児童
	【活動】	小学校での注意喚起
	【人材】	小学校、教育委員会
(短期) 認識や知識の変化	【指標】 学校下内で注意している児童の数 ➡取組事例をもとに実施した学校数	【測定】 児童の安全意識調査 ➡教育委員会調べ
(中期) 態度や行動の変化		
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 小学校の休憩時間に受傷した児童数	【測定】 教育委員会調べ

プログラム活動内容の変更

■プログラムの活動内容を一部変更（2023年）

【変更前】

十和田市セーフコミュニティだよりの発行



学校関係者に直接情報提供できる機会を設けることで、より効果的な取組になるのではないかとこの意見があり、部会内で協議を行う

【変更後】

市内小学校が実施している効果的な安全対策の取組事例を情報交換

プログラムの活動状況（2023年）

■児童生徒健康増進部会における活動内容の情報交換



◆ 2023年4月 休憩時間の事故防止に ついて情報交換◆

市内小中学校の保健主事・養護教諭で構成されている児童生徒健康増進部会において、「休憩時間の事故防止について」の各校の取組を情報交換した。

体育館の遊び方のルールや階段や廊下歩行のしかた等の取組事例を共有することで、各校での実践に生かしていく。

プログラムの活動状況（2024年）

健康増進部会・保健主事部会・養護教諭部会総会での事故防止の啓発及びアンケートによる各学校の取組調査

◆ 2024年4月 事故予防の呼びかけ◆

市内小中学校の保健主事・養護教諭で構成されている児童生徒健康増進部会の総会において、「学校内の事故防止について」啓発を行った。

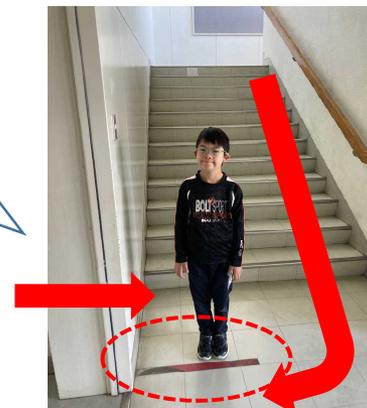
また、アンケートにより各学校の取組を調査した。

児童生徒健康増進部会の総会



● アンケート回答の一部

出会い頭事故防止のための「止まれ」のテープ



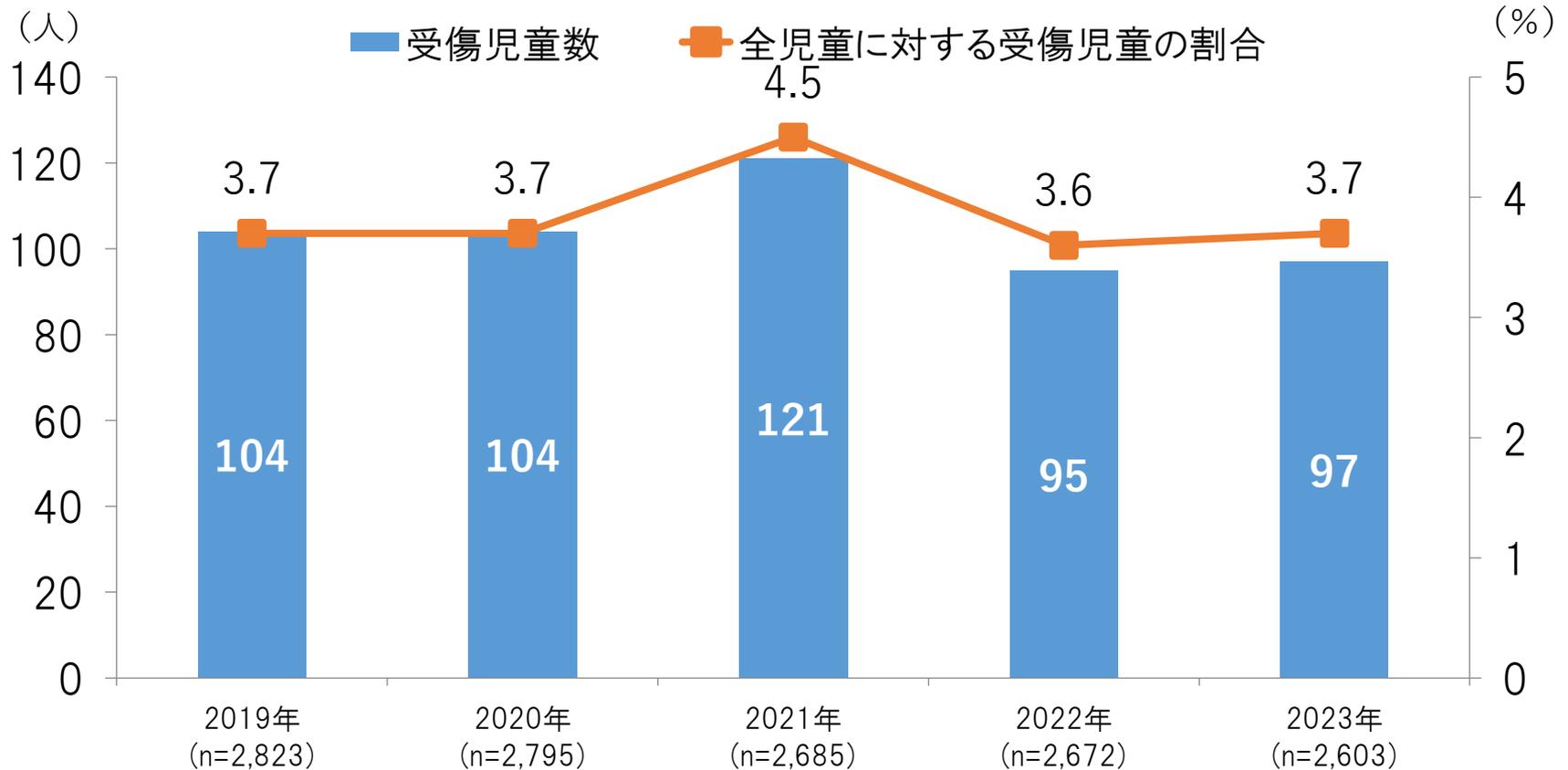
休憩時間中の
体育館での見守り

廊下の右側歩行の
呼びかけ

プログラムの活動評価①

■ 受傷児童数はコロナ過でも変化していない

図表12 小学校管理下内で受傷した児童数の推移

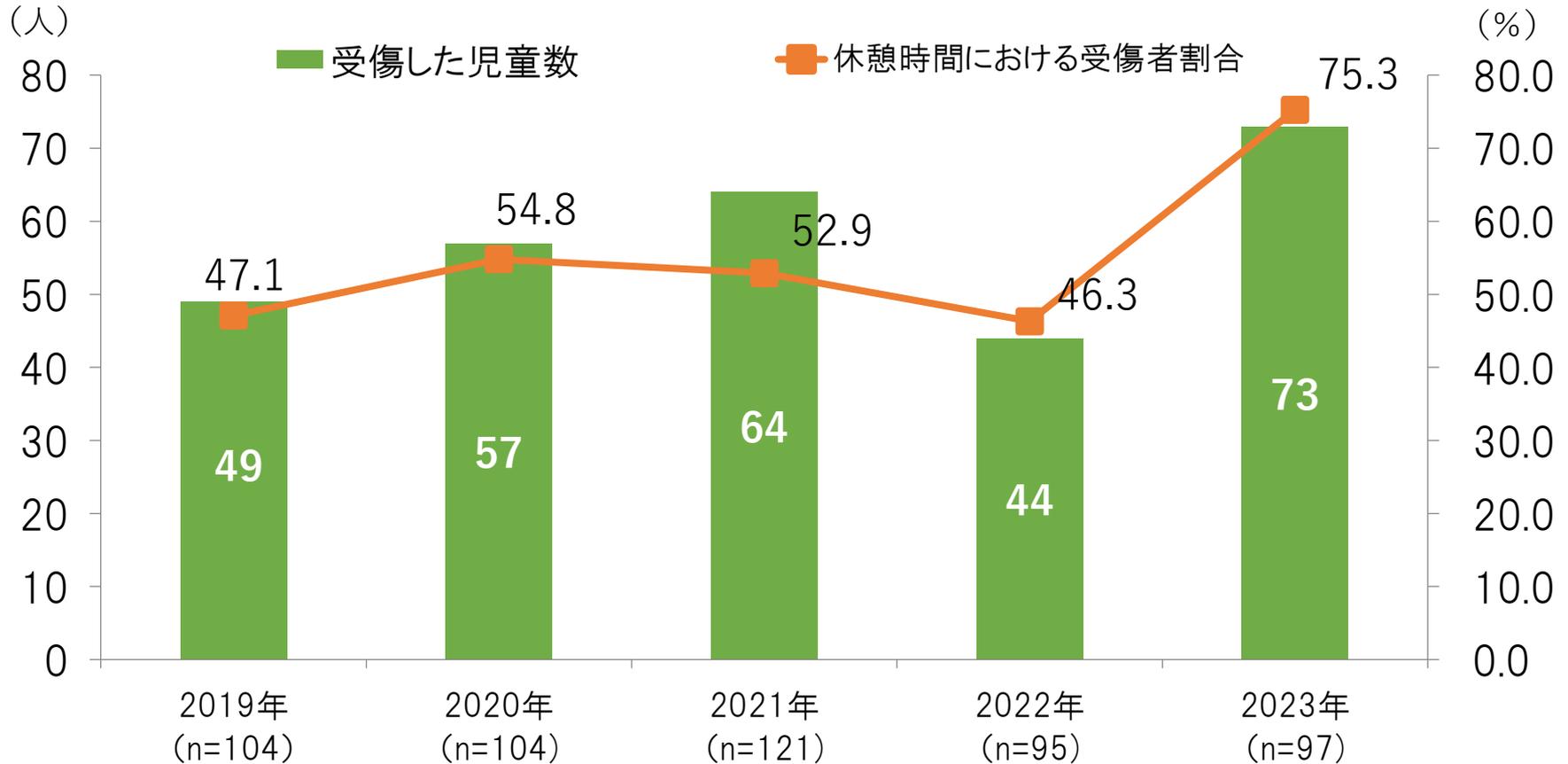


認証③

プログラムの活動評価②

■ 休憩時間における受傷者数は減少したが、割合は変化していない

図表13 小学校の休憩時間に受傷した児童数の推移(中・長期)



認証③

その他の活動

	課題	目的	活動概要
2019年	子どもへの暴力・虐待対策	暴力・虐待予防対策部会との合同取組	・きらめき講座「子ども相談センターの役割、子どもの暴力等について」を受講 ・部会同士の話し合い
2020年	自殺予防対策	対策部会全体での取組	啓発用ステッカーの配布 (保育園20施設)

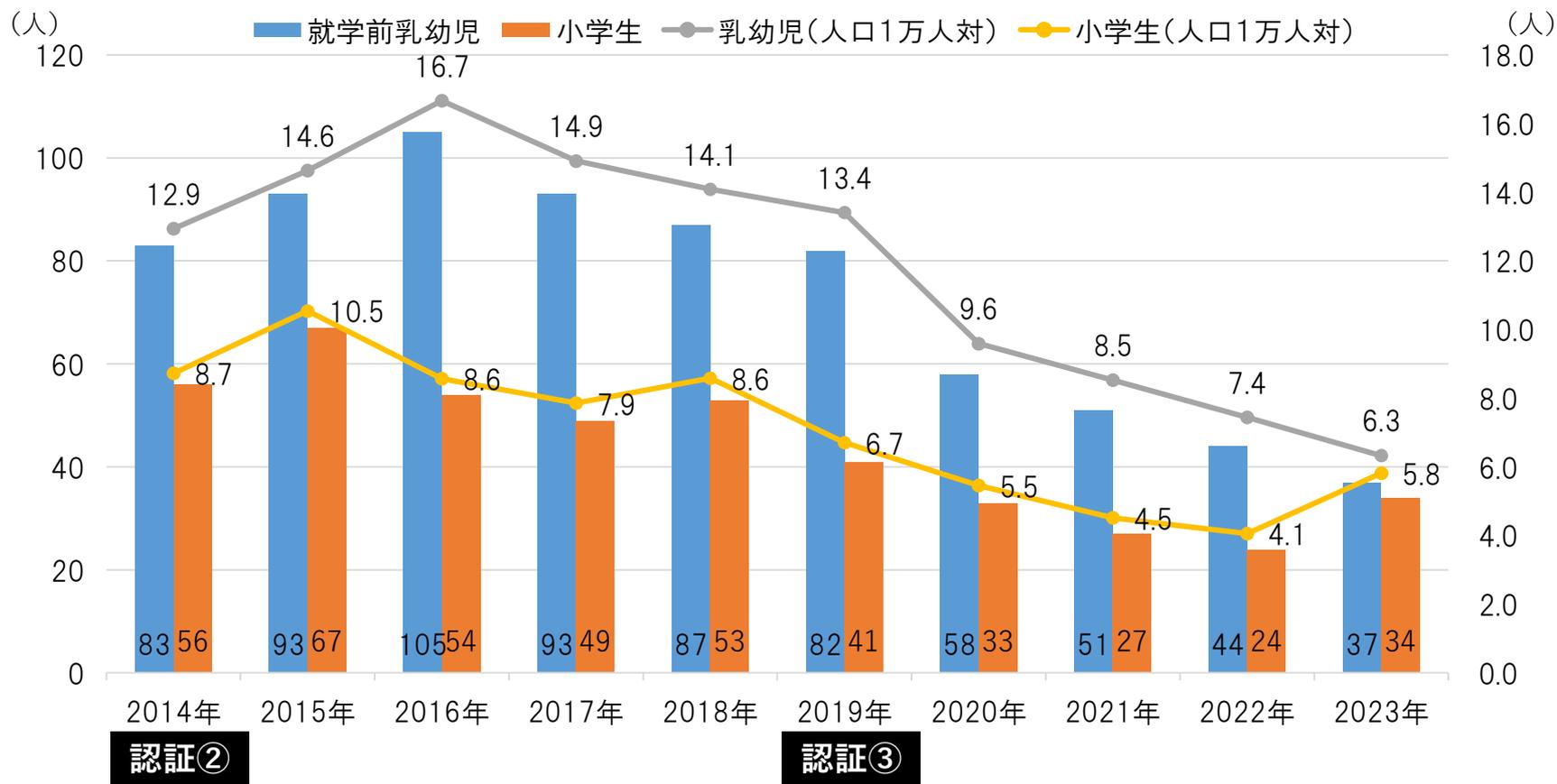


虐待部会との合同取組：きらめき講座受講、話し合いの様子
(2019)

プログラムの活動評価【全体】①

■ 就学前乳幼児と小学生の受傷者数は減少している

図表14 就学前乳幼児と小学生の受傷者数の推移



プログラムの活動評価【全体】②

■ 近年は中学生以下の不慮の事故等による死亡者が発生していない

図表15 子どもの不慮の事故等による死亡者数

死亡原因	2014～2018年					2019～2022年				
	合計 n=4	区分				合計 n=1	区分			
		就学前 乳幼児	小学生	中学生	高校等		就学前 乳幼児	小学生	中学生	高校等
不慮の事故	3人	1人	1人		1人				1人	
窒息	1人	1人			0人					
交通事故	1人				0人					
溺死 溺水	1人		1人		1人				1人	
自殺	1人			1人	0人					

課題

●乳幼児健診未受診の保護者に対する啓発ができていない

●乳幼児の安全対策のうち設置率が改善されない項目がある

今後の計画

2024年

2025年

2026年

2027年

2028年

①乳幼児を持つ親の意識啓発プログラム

【継続】

- ・既存の健康診断を活用し、家庭内事故の予防を呼びかける
- ・チラシ・ポスターを活用した配布先の拡大

【拡充】

- ・健診未受診の保護者への啓発活動

②小学校の安全対策プログラム

【継続】

- ・市内各小学校の安全対策について、児童生徒健康増進部会において情報交換し、各学校での実践に生かす。



ご清聴ありがとうございました

今日も無事でいてほしい



十和田市セーフコミュニティ推進マーク

- 「十」 十和田市の安全な街並み、
- 「和」 美しい郷土・十和田湖と紅葉、
- 「田」 人々の協働・交流・絆を表現